

単元名 なつと なかよし（おもしろい あそびが いっぱい）

1 学年

小	中
①	1
2	2
3	3
4	
5	
6	

背景

本単元の「おもしろいあそびがいっぱい」では、身近にある自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、自分たちの遊びや遊びに使う物を工夫してつくことで、遊びの面白さとともに、自然の不思議さに気づき、友達と楽しみながら遊びを創り出すことができるようにすることをねらいとしている。

梅雨が明け、暑くなるにつれて、水遊びへの関心が高まってきている児童は、幼稚園や保育所での経験を生かし、いろいろな水遊びを楽しんだり、新たに遊びを考え出したりしながら思い思いの活動を展開していく。ここでは、身近にある材料（トレー・ペットボトル・マヨネーズの容器等）を利用して、水遊びのおもちゃを作る。遊ぶことは子どもにとって一番の楽しみであり、自然と人との触れ合いを深めることのできる大切な場でもある。水遊びやシャボン玉遊び、砂遊びなどを通して、夏が来たことに気づき、自分たちの生活を工夫することで、友達と仲良く、夏を楽しく過ごすことができると考える。

ここでは、人とのつながりが深い「水」を使った遊びに着目し、生活科の「なつとなかよし」の単元を導入とし、次学年以降の理科の学習の素地となるように、水遊びを通して印旛沼の環境に目を向けるようにしていきたい。

ねらい

- 夏の自然を使った遊びを通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気付いている。（知識・技能）
- 夏の自然や身近にある物を使って、遊びや遊びに使う物を工夫してつくっている。（思考力・判断力・表現力）
- 夏の自然遊びに関心をもち、みんなで楽しみながら遊びを創り出そうとしている。（主態度）

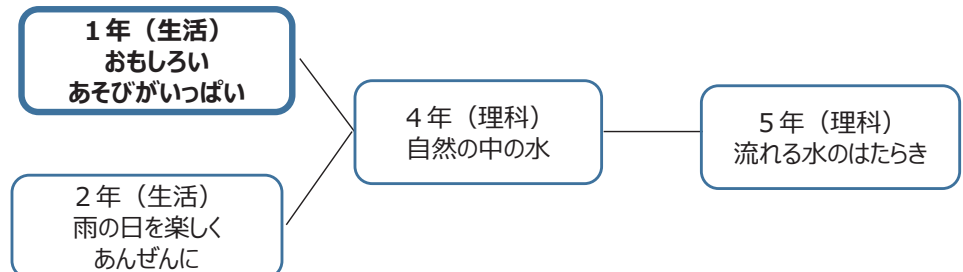
2 教科・領域

国語	生活
社会	家庭
算数	図工
数学	道德
理科	総合

3 見方や考え方

- 多様性
- 関連性
- 空間的広がり
- 時間的変化

系統



資料・準備・関連機関等

4 資質・能力

- 知識・技能
- 思考力
- 判断力
- 表現力
- 主態度

準備

- ・笹の葉（大きめなもの）
- ・水を入れる容器

資料

- ・「いんば沼ってどんな沼」印旛沼健全化会議事務局、平成17年
- ・「いんば沼～むかし、いま、そしてあした」財団法人印旛沼環境基金、株式会社弘文社、平成20年

指導計画

5 指導時間

- ・準備 1時間
- ・授業時間 1時間

時配	学習内容
1（本時）	夏において、昔の自然を使った遊びについて知り、昔から人と自然が仲良くであったことや今の自分たちの生活においても工夫して楽しく遊べることに気付くようにする。
2～3	身の回りの材料を工夫しながら遊び道具を作り、作ったもので競争したり、友達と一緒に遊んだりする。

本時でねらう見方や考え方

夏の自然を使ったさまざまな遊びを通して、昔の自然遊びについて知り、自然や自分たちの生活の様子について考え、夏の自然遊びに関心をもち、みんなで楽しみながら遊ぼうとしている。

本時の指導 1 / 3

- (1) 目標 ・昔の自然遊びについて知り、自然や自分たちの生活の様子について考えることができる。
(思考力・判断力・表現力)
・今と昔の夏の自然遊びに関心をもち、みんなで楽しみながら遊ぼうとしている。(主態度)

(2) 展開

学習過程	時配	学習活動と主な発問(◎)	指導や支援(・)評価(☆)	資料
見出す	5	1 これまでの経験をもとに、夏にどんな遊びをしたことがあるのか伝え合う。 ・プールに行き泳いだよ。 ・庭で水遊びをしたよ。 ・虫取りをしたよ。	・家庭や幼稚園、保育所での経験を振り返り、ここでは水を使った遊びについて目を向けさせたい。	
調べる	10	2 昔の子どもたちは、どんな遊びをしていたのかを話し合う。 ・近くにある川や沼で遊んでいた。 ・笹舟を作って、川に流していた。 ・川でメダカやザリガニ釣りをしていた。 ・田んぼでどじょうを捕まえていた。 ・竹の水鉄砲で遊んでいた。	・プールが学校にしかなかった当時の子どもたちは、何をして遊んでいたのかを写真等で提示したり、事前に年配の方から聞き取ったことをもとに話し合う。 ☆昔の自然遊びについて知り、自然や自分たちの生活の様子について考えることができる。 <思考力・判断力・表現力>	昔の水遊びをしている写真 (資料参照)
深める	20	3 笹舟の作り方を知り、実際に作って水に浮かばせる。 【笹舟のつくりかた】 (参照:資料等(1)資料及び使い方)	・自然にあるものを材料として、笹舟を体験することにより、昔の遊びのよさに気付くようにする。 ・笹の葉で手を切らないように気をつけながら作る。 ・容器に水を溜め、実際に浮かばせたり、風をを起こして前進させたりして遊べるようにする。	「笹舟の作り方」の掲示物 水を溜める容器
まとめあげる	7	4 笹舟を作ったり、水に浮かばせて気付いたことを発表し合う。 ・笹の葉が浮かんで、驚いたよ。 ・風を当てると、前に進んだよ。 ・笹舟の中に水が入らないようにするといひ。	・笹の葉が水に浮いたり、風で動いたりする自然の不思議さにも気付かせたい。 ・今も昔も、自然や身近にある物を使って工夫すれば、楽しく水遊びができることを伝える。 ☆昔の夏の自然遊びに関心をもち、みんなで楽しみながら遊ぼうとしている。 <主態度>	
	3	5 本時の活動を振り返り、次時への活動を確認する。	・本時の活動を振り返り、次時への見通しがもてるようにする。	

(3) 板書計画

みずあそびだいさくせん！
～むかしのみずあそびをたのしもう～

いま

- ・プール
- ・みずでっぽう
- ・むしとり

むかし

- ・ささぶね
- ・竹のみずでっぽう
- ・ぬまや川でのあそび

【ささぶねのつくりかた】
 ①はしをすこしおる。
 ②おったところに、きりこみを2ついれる。
 ③3つにわかれたところのりようはじをもち、かたほうのわのなかにとおす。
 ④はんたいがわのはも、おなじようにする。
 ⑤みずにかけてみよう！

いまもむかしも、しぜんやみぢかにあるものでたのしくあそぶことができる。

資料等

(1) 資料及び使い方

【昔の水遊びをしている写真】（この場合の“昔”とは1940年代を指しています）



撮影 川島俊彦氏
場所 印旛沼

【笹舟の作り方】

- ① 笹の葉（大きめのもの）を用意する。
- ② 端の部分を3～4 cmほど折る。
- ③ 折った部分を手で3つに裂いて、切り込みが2つ入るようになる。
- ④ 3つに分かれた部分の両端を内側に寄せて、片方の輪の中に、もう片方を通す。
- ⑤ もう片方の端も同じように折り、切って交差させたら完成。

(2) 発展

- 夏のみならず、他の季節の遊び（どんぐりごま、まつぼっくりけん玉、竹馬等）においても、今と昔の遊びを比べることで、自然や自分たちの生活の様子について考え、自然と人との関わりの深さに気付かせ、深い学びへと導いていきたい。
- 水遊びにおいて、事前に雨水などを溜めておいたり、遊びに使った水を草木にあげたりするなど、環境面にも配慮していけるとよい。

(3) 授業のポイント

- 今と昔の自然遊びを比べる際は、事前に身近な人（年配者など）から情報収集したり、地域人材を活用したりして、当時の様子を紹介できるとよい。

(4) 留意点

- ※「昔の水遊びをしている写真」は、左記の資料を拡大コピーして使用してください。
- ※水深の深いところや段差があるところは危険なため、子どものみで河川付近で遊ぶことは禁止されていることを、事後指導として児童に周知してください。
- ※地域や学校・学級の実態に応じて、本時の内容を変更させても構いません。

単元名 生きもの はっけん

1 学年

小	中
1	1
②	2
3	3
4	
5	
6	

背景

低学年児童は、昆虫や小動物を触ったり、育てたりしてみたいという気持ちをもつ子が多く、生き物に対する興味・関心が高い。しかし、実際の子供達を取り巻く自然環境は、自ら野外で昆虫などを採集する場所や機会が減少している。また、子どもたちの住環境に、生き物を飼育することができない事情も増えている。子供達の生き物への興味・関心を失わせないために、生活科でじかに生き物に触れ合い、飼育活動をする中で、生き物を愛する心や生命を大切にする心情を養う機会としたい。

まず、この単元では、水辺の生き物に着目し、子どもたちの身近な場所には、どんな生き物が生息しているかを考えさせ、生き物が生息する場所や条件によって、生き物の種類や飼い方が変わってくることを身近な自然の観察や飼育を通して気付かせるようにする。

さらに、学校で飼っている生き物の他に、水生の生き物にはどんなものがあるかを調べ、水生の生き物についての理解や関心を深めるようにしたい。

生き物と環境との関係について、生活科の「生きものはっけん」の単元を導入とし、次学年以降の理科の学習の素地となるように、生き物を通して印旛沼の環境に目を向けるようにしていきたい。

2 教科・領域

国語	生活
社会	家庭
算数	図工
数学	道徳
理科	総合

ねらい

- 飼育活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができる。（思考力・判断力・表現力）
- 生き物は、生命をもっていることや成長していることに気付くことができる。（知識・技能）
- 生き物への親しみをもち、大切にしようとする気持ちをもたせる。（主態度）

3 見方や考え方

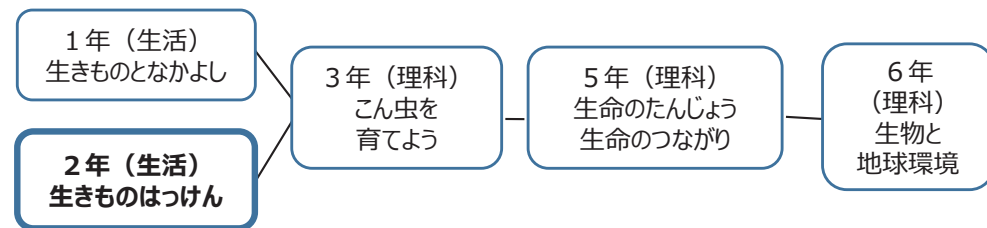
多様性

関連性

空間的広がり

時間的変化

系統



資料・準備・関連機関等

資料：「たのしい せいかつ」素材百科カード集（ワークシート）大日本図書
 水辺に生息している生物の写真（大日本図書「たのしい せいかつ下」巻末）
 陸に生息している生物の写真（大日本図書「たのしい せいかつ上」巻末）
 「みんなでつくる川の環境目標」環境コミュニケーションズ、2004
 「いんば沼のはなし」公益財団法人 印旛沼環境基金、2018
 サイト：いんばぬま情報ひろば 生態系

4 資質・能力

知識・技能

思考力

判断力

表現力

主態度

指導計画

5 指導時間

- ・準備 1時間
- ・授業時間 1コマ(45分)

時配	学習内容
1(本時)	身近にいる生き物に興味・関心をもち、それらが見つかる場所を教え合い、探しに行く計画を立て、準備をする。
2	身近にいる生き物を探しに行く準備をする。
3、4	友達と協力しながら、生き物を捕まえることができる。
5、6	捕まえてきた生き物の飼い方を調べ、生き物のくらしやすいすみかを作って大事に育てる。
7	生き物を飼い続ける中で、発見したことを観察カードに書き、知らせ合う。
8(本時)	皆で飼っている生き物の他に水辺（近くの川や印旛沼）にはどんな生き物がいるか話し合い、過去と現在で生息する生き物に違いがあることに気づかせ、環境について目を向けられるようにする。

本時でねらう見方や考え方

- ・ 水域・水際域・陸域のそれぞれに生息する生き物について知り、生き物が生息する場所や条件によって、生き物の種類や飼いが変わってくることを、身近な自然の観察や飼育を通して気付かせるようにする。

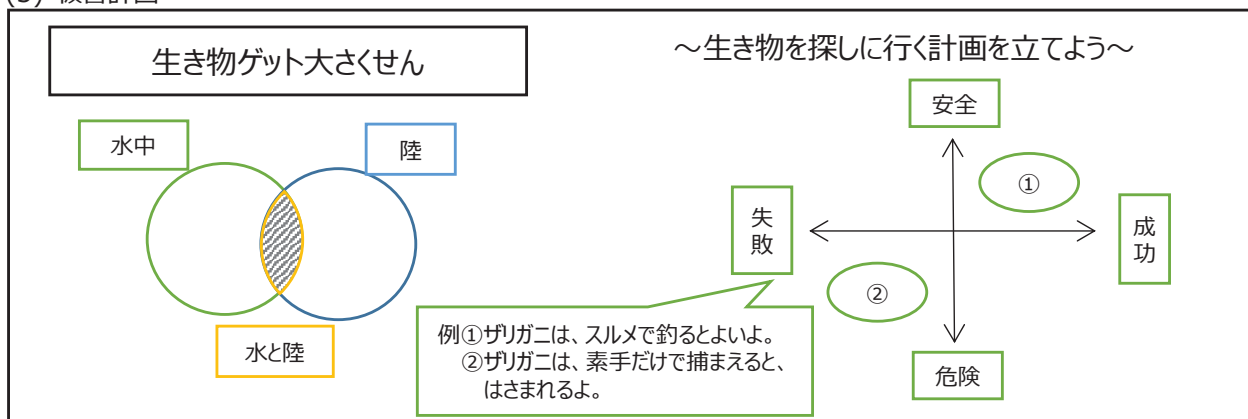
本時の指導 1 / 8

(1) 目標 身近にいる生き物に興味・関心をもち、それらが見つかる場所を教え合い、探しに行く計画を立てることがで
きる。

(2) 展開

時配	学習活動と主な発問(◎)	指導や支援(・)評価(☆)	資料
5	1 学校や自分の家の近くには、何の生き物が、どんな場所にいるのか伝え合う。(全体) ・生き物 (ザリガニ、メダカ、ダンゴムシなど) ・場所 (田んぼ、池、石の下)	・単元学習に入る前に、教室の本棚には生き物図鑑を置き、生き物のことに興味・関心が向くようにする。	生き物図鑑等
10	2 自然の中には、場所ごとにいろいろな生き物が生息していることを知る。(ベン図)	・発表を受けて、教師がベン図を用いて水域(水中)、水際域(水と陸)、陸域(陸)ごとに生息する生き物に分けてまとめていき、場所によって生息する生き物が違うことに気づかせる。 例 水域(水の中)…メダカ、おたまじゃくし、やど水際域(水と陸)…ザリガニ カエル 陸域(陸)…チョウ、バッタ、ダンゴムシ ・生き物を見つけたり捕まえたりした経験を発表させることで、他の子どもの見つけたい、捕まえたいとの思いを高めるようにする。	生き物の写真
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 生き物ゲット大さくせん ～生き物をさがしに行く計画を立てよう～ </div>			
15	3 生き物探しの計画を立て、準備について考える。(グループ4人くらい) ◎生き物がどんなところにいるか、どうすると捕まえやすいかなど話し合ひましよう。 ・バケツと竿を持って田んぼでザリガニを釣りたい。 ・ヤゴをプールで、バケツと網を使って捕まえたい。	・グループで話し合いやすくするために、ワークシートに記載する順「何の生き物を、どこで、持ち物、捕まえ方」ごとに話し合わせる。 ・捕獲する生き物の場所については、教師が事前に地域の方などに取材して把握しておくようにする。(安全面の配慮) ・地域や学校の実態に応じて、自分たちではなかなか捕まえに行くことのできない生き物に触れ合ってほしいという思いを伝える。(水生の生き物など) ☆自分が探したい生き物を決め、採集の準備をしようとしている。 <主態度>	ワークシート(教師用指導書カード集に掲載されている「ゲット大さくせんカード」を参考に、実態に合わせて活用する。)
15	4 グループで話し合ったことや他の児童の経験などから知っていることを全体で発表し、学び合う。 ◎生き物を探したり、捕まえたりするときに、どんなことに気をつけるといいか話し合ひましよう。(座標軸)	・発表を受けて、教師が座標軸等を用いて、板書をまとめる。(生き物ごとに色を変えるとよい。) ※地域や学校・学級の実態に応じて、変容させてください。(池やビオトープ等)	

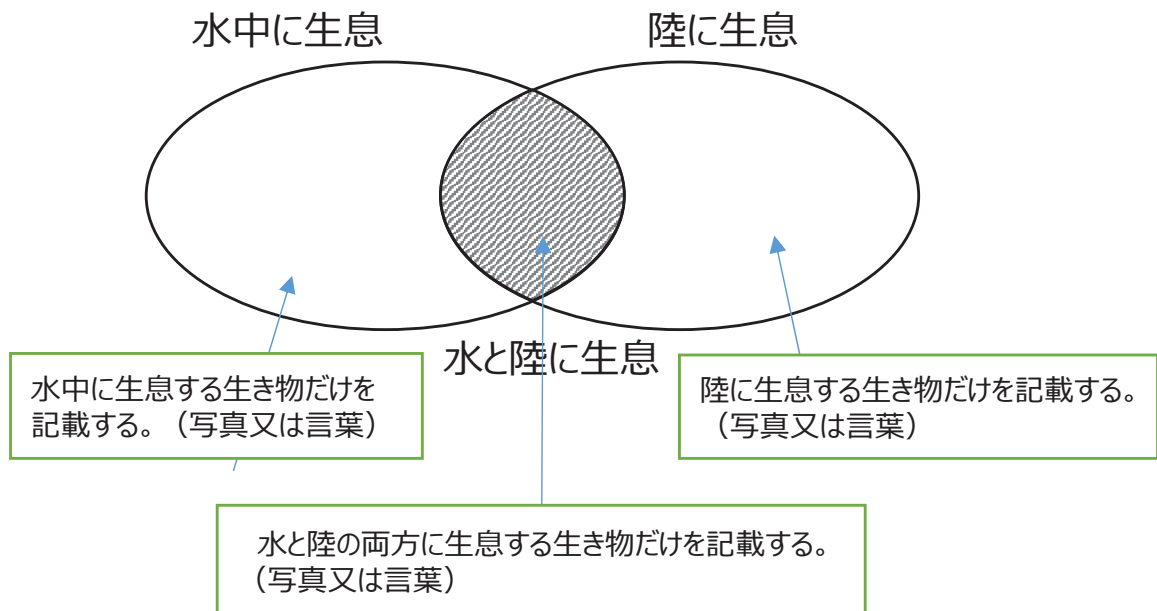
(3) 板書計画



(1) 資料及び使い方

○本時の指導 1 / 8

【ベン図の使い方】・・・比較、分類



【座標軸の使い方】・・・比較、分類、位置づけ、整理

①座標のx軸に「安全⇔危険」、y 軸に「成功⇔失敗」を記す。

②それぞれの軸のプラス面（良い点）、マイナス面（悪い点）を座標 軸上に教師が板書していく。

※ここでは、厳密な位置に注意を払う必要はない。感覚的・相対的に事柄を配置する。

③座標軸を元にして、全体でどのようにすればよいのか考えたり、話し合ったりさせる。

(2) 発展

学習活動	指導内容
水辺にすむ生き物のために、どんなことができるだろうか。	
<ul style="list-style-type: none">・どの生き物にも、住みやすい場所を作っていきたいね。・水を汚さないためにも、お家の人にも知らせたいね。・これまで水辺の生き物について調べてきたことを、校内に掲示したり、家の人や1年生にも教えてあげよう。	<ul style="list-style-type: none">・これまで学習してきたことを生かして、自分たちの思いや願いを込めて、家庭や全校に発表する活動を行う。・ポスター等にまとめて授業参観時に報告会をしたり、校内に掲示したりして、学習した内容を広げていく。 ※今後の学習は、合科的に取り扱うと良い。

(3) 授業のポイント

- ・思考ツールについては、学年・学級の実態に応じて活用する。
- ・本時の授業1 / 8で使用するワークシートは、教師用指導書カード集に掲載されている「ゲット大さくせんカード」を参考に、学年・学級の実態に応じて活用する。

(4) 留意点

- ※生き物の写真（今と昔）は、生活科の教科書（上下の巻末）にある資料を参考にする。
- ※地域や学校・学級の実態に応じて、本時の内容を変容させてもよい。

本時でねらう見方や考え方

- 自分たちの身近にある水辺（近くの川又は印旛沼）の今と昔で生息する生き物に違いがあることに気付き、身近な環境について目を向けることができる。

本時の指導 8 / 8

- (1) 目標 身近にある水辺（近くの川や印旛沼）に関心をもち、今と昔で生息する生き物に違いがあることに気付くことができる。
(知識・技能)

(2) 展開

時配	学習活動と主な発問(◎)	指導や支援(・)評価(☆)	資料
5	1 これまでの学習を通して、自分たちの身近にある水辺（近くの川又は印旛沼）には、どのような生き物がいたのか伝え合う。 ・プールには、やごやおたまじゃくしがいたよ。 ・池でザリガニを捕まえたよ。 ・川の近くでホタルがいたよ。	・今まで学習してきたことを想起させ、川や印旛沼に生息する水生生物について興味・関心が向くようにする。 ・現在の水辺に生息している生き物の写真（又は言葉）を随時黒板に掲示していく。	・水生生物の写真（今）
10	2 昔の水辺（川又は印旛沼）には、どのような生き物が生息していたのか紹介し合う。 ・ホタルがたくさんいた。 ・メダカやサワガニがいた。 ・ドジョウやタニシがいた。	・事前に、生き物図鑑や家族、地域の人から、昔の水辺に生息していた生き物について調べておき、それらをもとに紹介し合うようにする。 ・昔の水辺に生息していた生き物の写真（又は言葉）を随時黒板に掲示していく。 ・現段階では、昔は多様な水生生物が生息していたことに気付かせる程度でよい。 ☆身近にある水辺（近くの川や印旛沼）に関心をもち、話し合うことができる。 <主態度>	・水生生物の写真（昔）
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>今と昔では、水辺にすむ生き物は、どのように変わっているのだろうか。</p> </div>			
15	3 今と昔の川の様子を比べて、気付いたことを話し合う。（グループ） ・魚の数が違う。 ・魚の種類が多い。 ・川岸に水草がたくさん生えている。 ・今は、川と陸との境に壁のようなものがある。	・印旛沼の断面図を提示し、今と昔の川を比べて、生息している生き物やすみかの違いに目を向けられるようにする。 ・各グループに配られた印旛沼の断面図をもとに、相違点を丸で囲んだり、気付いたことを自由に話し合ったりする。 ☆昔と今で生息する生き物やすみかに違いがあることに気付くことができる。 <知識・技能>	・掲示用に拡大された印旛沼の断面図のイラスト（今と昔の2種類） ・各グループ用に印刷された印旛沼の断面図のイラスト（今と昔の2種類）
10	4 グループで話し合ったことをもとに、全体で学び合う。 ・川の作りが違くと、住んでいる生き物も変わるんだね。 ・自分たちが飼育してきた生き物にも、水草みたいに隠れるところを作ってあげたよ。 ・生き物が住みやすい場所を作って、種類を増やしてあげたいね。	・周囲の環境の変化によって、住んでいる生き物の種類も変化することに気付かせる。 ・どの生き物にとっても、すみやすい環境（水質やえさ、すみか等）を整えていく必要があることに気付かせる。	
5	5 これまでの学習を振り返り、感想を発表し合う。	・これまでの学習を振り返り、生き物が生息するには、それらを取り巻く環境（水質やえさ、すみか等）をわたしたちが大切にしていける必要があることを伝える。	

(3) 板書計画 8 / 8

今と昔では、水べにすむ生き物は、どのようにかわっているのだろうか。

生息する生き物の写真（今）

生息する生き物の写真（昔）

各班のワークシート

各班のワークシート

印旛沼の断面図（昔）

各班のワークシート

各班のワークシート

印旛沼の断面図（今）

各班のワークシート

各班のワークシート

・魚の数がちがう。
・昔は、魚のしゅるいがおおい。
・昔は、水草がたくさん生えている。

どの生きものにも、すみやすい場所をつくらることが大切。

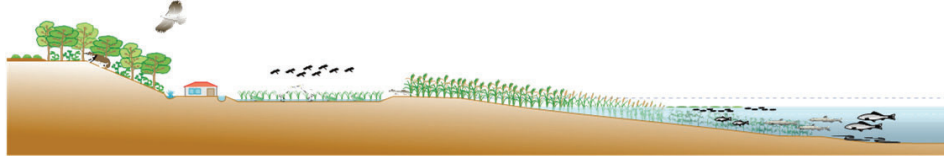
資料等

(1) 資料及び使い方

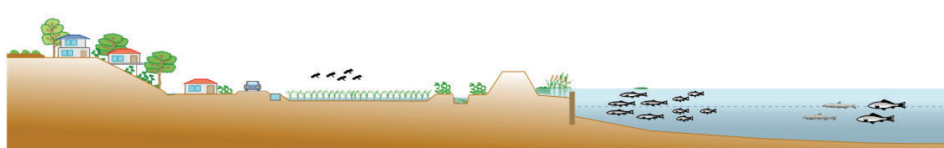
○本時の指導 8 / 8

【印旛沼の断面図】

昔



今



(2) 発展

学習活動	指導内容
<ul style="list-style-type: none">・どの生き物にも、住みやすい場所を作っていきたいね。・水を汚さないためにも、お家の人にも知らせたいね。・これまで水辺の生き物について調べてきたことを、校内に掲示したり、家の人や1年生にも教えてあげよう。	<ul style="list-style-type: none">・これまで学習してきたことを生かして、自分たちの思いや願いを込めて、家庭や全校に発表する活動を行う。・ポスター等にまとめて授業参観時に報告会をしたり、校内に掲示したりして、学習した内容を広げていく。 ※今後の学習を合科的に取り扱うと良い。

(3) 授業のポイント

※印旛沼の断面図（今と昔）は、「資料及び使い方」のイラストを掲示用に拡大コピー又はグループ学習用のワークシートとして活用する。

(4) 留意点

※生き物の写真（今と昔）は、生活科の教科書（上下の巻末）にある資料を参考にする。
※地域や学校・学級の実態に応じて、本時の内容を変容させてもよい。